

資料 戦後の作文・書くことに関する主要な能力表

著者	長田 友紀, 菊田 尚人
雑誌名	人文学教育研究
号	42
ページ	67-78
発行年	2015-08-18
その他のタイトル	Writing Standards in Postwar
URL	http://hdl.handle.net/2241/00126255

資料

戦後の作文・書くことに関する主要な能力表

長 田 友 紀
菊 田 尚 人

本資料について

本資料は、戦後の作文や書くことに関する主要な能力表を整理したものである。対象となる資料は、学習指導要領も含め、戦後から現在にいたるまで発表された能力表である。各学年ごとの能力やスキルが一覧表の形ではっきりと示されているものを選んだ。本資料によって、国語教育において、学年ごとに書くことのスキルや能力がどのように提案されてきたかが分かる。

資料の見方は次の通りである。「番号」は本資料の最後に付した文献一覧の番号である。「著者」も文献一覧の著者名を代表として記した。「1年～6年」は各能力表で示された書くことに関するスキルや能力を転載してある。

本資料の作成にあたっては、科研費基盤研究(B) (26285196)「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」(研究代表：矢澤真人)の助成を受けた。

番号	著者	出版年	1年	2年	3年
1	小島忠治	1950	<p>作ること</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分のしたこと見たことを絵にかきそれについてお話ができる 文字板を利用して単語を書き、それについてお話をすることが出来る 身近なできごとを二文字くらいに文書に書くことができる 家庭へのかんたんな伝言が書ける 詩のようなみじかい文が書ける や、をつけることができる 文字板の単語がわかりそれについてお話ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 観察したことを書くことができる。(動植物) 四〇〇字くらいの生活文が書ける 身したとらについて、かんたんに書ける かんたんな手紙がかけられる 童詩がかけられる かんたんな同伴や伝言を書くことができる だいたい四行の同伴や伝言を書くことができる 「。」をつけることができる 促音、拗音、長音、拗長音、濁音が正しく書ける 	<ol style="list-style-type: none"> 長期観察の記録が書ける 調べたことについてかんたんな説明がかけられる 自治会の記録や学級日記が書ける 聞いた話や読んだ話についてかんたんな感想がかけられる 招待状や見舞や開合わせ状などいろいろの手紙がかけられる 縦書きで四〇〇字くらいの文がかけられる 漢字の巧みみとちがわかる 書くことがを決めてから書くことができる 縦書きで書けるようになる 前半部半部つけ出すことができる 一文をくわしくするために必要なことばを書きそえることができる 「。」が正しく使える 敬体・常体の使い分けができる 原稿用紙の使い方がわかる かへ新聞、紙芝居の脚本がかけられる
			<p>書くこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 書くことに興味をもつ 書くときの姿勢や用紙の扱い方がわかる 兼順や字形に注意しかける 48えんぴつ石筆(ロー石)チョーク、クレヨンなどで字が書ける 学習した文字の八〇%は正確に書ける 一分間に一〇字位練習できる 同一文字、同一語句の文字をさがして、線でむすんだり、手でかこったり傍線をつけたり、線で囲ったりすることができる <p>(作文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 二文字で書くことに興味わいてくる。 簡単な口頭作文ができる。 自分で書いた絵に、簡単な説明をつけることができる。 家庭への伝言など、簡単なメモを書くことができる。 自分の行動や身辺のできごとなどについて、簡単な文を書くことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> おちついて、ていねいに書ける 形をととのえて文字がかけられるようになる 紙やノートの使い方がわかる 一分間に二〇字くらいは練習ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 美しく書くことと注意をもって書ける 文字の各部分のつりあいがわかる 筆順の練習になる だんだん小さい字が書けるようになる けいのない紙に字を揃えて書けるようになる 一分間に二五字くらいの練習ができるようになる
2	文部省	1951	<p>(書き方)</p> <ol style="list-style-type: none"> 文を書くことに興味をもち、書くことに興味わいてくる。 書くときの姿勢や用紙の扱い方がわかる。 一えんぴつ角丸の文字が書ける。 自分の名まえを書くことができる。 簡単な間に対して答を書くことができる。 7 複写することができる。 簡単な語や文を書くことができる。 文字に筆順のあることがわかる。 ひらがなが書ける。 読める漢字のだいたいが書ける。 アラビア数字が書ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 生活を主とした総日記を書くことができる。 簡単な総語を書くことができる。 感情のこもった短い文章を書くことができる。 身近な生活の報告や記録を主とした簡単な文を書くことができる。 親しい友だちや先生などに簡単な手紙を書くことができる。 簡単な礼状や招待状を書くことができる。 お互いの作文を読み合っ楽しむことができる。 9 文の飾りつけができる。 てんや、まるをうつことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 前編 栽培などの長期にわたる記録が書ける。 簡単な紙しばいの台本が書ける。 日記・手紙・報告などを書くために、その素材をまとめることができる。 児童会やクラブ活動に必要な情報や、短い文にまとめることができる。 文を詳しくするために、必要なことばを書き加えることができる。 文の筋をはっきりさせるために、不必要なことばを削ることができる。 自分の作品を整理したり、文集をつくらなければならない。 新しいことばを使用する興味が出てくる。 ことばの正しい使い方の基礎ができる。 よ推考することができる。 自分の作文や人の作文について、詳細を始める。 文字のほかに語句の使い方がわかる。
			<p>(書き方)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文を書くことに興味をもち、書くことに興味わいてくる。 2 書くときの姿勢や用紙の扱い方がわかる。 3 一えんぴつ角丸の文字が書ける。 4 自分の名まえを書くことができる。 5 簡単な間に対して答を書くことができる。 6 複写することができる。 7 簡単な語や文を書くことができる。 8 文字に筆順のあることがわかる。 9 ひらがなが書ける。 10 読める漢字のだいたいが書ける。 11 アラビア数字が書ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 運筆がだんだん楽になる。 2 複写ができる。 3 簡単な文の句点・うたなどを書くことができる。 4 文字の形が、だんだん整ってくる。 5 ノートの使い方がわかる。 6 かなたのだいたいが書ける。 7 読める漢字のだいたいが書けることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 一えんぴつ角丸の文字が書ける。 2 複写ができる。 3 自給や、けい紙が使えるようになる。 4 はがきや手紙を書くことができる。 5 練習の上書きを書くことができる。 6 標準的な筆順で書くことができる。 7 文字を組立する基本の形(へん・つくり、かんむり)のあることがわかる。 8 文字の形を整えるための能力がだんだん発達して行く。 9 読める漢字のだいたいが書ける。 10 かなたの漢字が書ける。
3	倉澤栄吉	1952	<p>(一) 通信</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相手をきめて文を書くことに慣れる 	<ol style="list-style-type: none"> 2 だれかに出来事を知らせることの意義がわかる 2 通信のたのしさが身につく 	<ol style="list-style-type: none"> 4 文を書きながら、読む人の気持ちを考える 5 相手を喜ばすように書く態度ができる
			<p>(二) 書式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文は、や、のあることを知る 2 紙の天地、左右のあけ方のあることを知る 	<ol style="list-style-type: none"> 3 文のはじめ、中、おわりなどの部分のあきを知る 4 紙のスペースの使い方に慣れる 	<ol style="list-style-type: none"> 6 日記や手紙の形式を理解する 7 文の段落をきながら書く 7 ふうの文のほかに台本や対話文や日記文などのあることを知る 8 自給やけい紙に字の配置を考えて書くようになる 9 縦書き、横書きの二つあることを知る
			<p>(三) 通達</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 内容がいくつかまとめてわかりやすく示すようになる 2 書いたあとで読みなおす習慣をつける 	<ol style="list-style-type: none"> 3 内容をふるいわけて書くような努力をする 4 書いたことを読みなおして、少しずつなおすようになる 	<ol style="list-style-type: none"> 6 大きい人に読ませる文やことばの役目を知る 7 人に読ませる文は短くことばを減らすことを知る 7 はっきりと書き表すように注意するようになる
			<p>(四) 記録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 身のまわりのことを思い出して気軽に書くようになる 	<ol style="list-style-type: none"> 2 経験したことをそのまま書くようになる 3 書いてあることを正しく練習することによって慣れる 4 生活上のおもしろい体験が適切に回想できる 	<ol style="list-style-type: none"> 5 長い時間にならなくて記録して一つのことを書きつけるようになる 6 忠実に書きつけるために、物事をよく観察するようになる
			<p>(五) 感想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 何かを思ったらそれを文にすることを試みる 2 自分の感じたことを文にすることに興味を持つ 	<ol style="list-style-type: none"> 3 短いことばで、生活経験を思い出して書きつけることに慣れる 	<ol style="list-style-type: none"> 6 感じたこと、行ったことを文にすると心構えを確かにする 6 すべての文に、自分の感じたことを書き加えたり考えなおすようになる
			<p>(六) 創作</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自由に文を作ることのおもしろさが身につく 	<ol style="list-style-type: none"> 2 短いことばで自由に書き表すことに興味を持ちしめる 	<ol style="list-style-type: none"> 3 各教科の学習で話を作ったり脚本を作ったりすることを楽しむ 4 自分の考えを書いて、みんなに分ちあうことを楽しむ
4	渡多野宛治・清川通夫	1953	<ol style="list-style-type: none"> 1 クレヨンやふんじペンで、じぶんの名まえを書く。(〇や△などのかんたんな図形や美しいひらがな・直線線・絵などを地面や砂に書く。小黒板に書く。大きな紙に書く) 2 エンピツでひらがなを書く 3 四em平方のひらぎに書くことから、em二平方のひらぎに字を書く 4 書くときの正しい姿勢をおぼえる 5 エンピツの正しい持ちかたをおぼえる 6 空書、指書きをする。(空中に大きく書くを動かして書くのと、机に指で書く) 7 かんたんな漢字の書きかたをおぼえる(筆順を正しく、字源の興味をもつ。五〇字くらいを、教科書および国語の地名、姓名、広名などをおぼえるのは無理でない。数詞「一〜十」「一〇」を書く) 8 生活経験を絵にして、それにかんたんなことばや文を書く 9 ぶんぶんを教科書にのせて、透写練習をする 10 一分間に十文字くらいの速さで教科書の文を複写する 11 かんたんな文を、分解的に聴写する 12 じぶんの書いた絵について話ができる、かんたんな説明をひらがなで書く 13 絵日記を書く。(絵だけのもから、かんたんな文をふくむものに展開する) 14 学校から家庭へのかんたんな伝言を書く 15 かんたんな文をはがきかてがみにつく 16 他人言ったことばをおぼえて書く 17 身近なできごと(家庭・途中・学校)を書く 18 かんたんな習字を文字で書く 19 句読点をうつことをおぼえる 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ひらがなせんぶを形をととのえて書く 2 カタカナをひらがなと対照して書く 3 漢字の書きかたを新しく百字くらいおぼえる 4 筆順練習をおぼえて練習する 5 かんたんな節言をおぼえる 6 ノートにふうのエンピツでマスからはみださないように書く 7 行をそろえて書く 8 腕書きをカタリとして書ける。(ひらがなカタカナの混用をきけることはまだ要求しない) 9 家庭、学校生活の興味ある題材で日記を書く 10 観察を主とした絵日記を書く 11 かんたんな組し(けい)形式の組しなしを書く 12 欠席の友だちにかんたんな手紙を書く 13 経験の順序にしたがって話したことをもとにして文を書く 14 ひらがな文の中に肩文字を使って文を書く 15 複写と聴写の練習をする。(複写一分間二十字) 16 感動のことばをみじかい文を書く 18 句読点のつけかたをおぼえる 	<ol style="list-style-type: none"> 1 一〜五em平方のマスに文字をはみださないように書く 2 漢字一四〇字くらい書く 3 正しく文字(筆順)を書くように注意する 4 実際生活の必要と興味から「はがき」や「てがみ」を書く 5 原稿用紙を使って書く 6 文字の正しい美観に配慮して書く 7 じぶんの書いた文の欠点をみつけて書きなおしたり練習したりする 8 読める漢字の二つあることを知る 9 表書きをする 10 前編・後編・観察などの記録文がかけられる 11 学級日記を書く 12 読んだ物語や聞いた話の感想を書く 13 映画・ゴキウ・人形を見た感想を書く 14 学習の要点をノートに書く 15 じぶんの生活経験を絵でだてて書く 16 遠足、見学などの記録を書く 17 学芸会、読書会、運動会、誕生日などの案内状を書く 18 学校・学校行事のプログラムを書く 19 文がでかきから、くみえし読んで、楽に入るようになってみる 20 助詞の正しい使いかたをおぼえる 21 写生の文や詩を書いてみる 22 学級のかへ新聞を協力して作る

4年	5年	6年
<ol style="list-style-type: none"> 見たこと、聞いたこと、読んだことについて感想や意見をかくことができる。 見つけたことや調べたことについて報告する文が書ける。 計画をたてるためにかんたんな案を書くことができる。 いろいろな標語が書ける。 運動会、学芸会、子供会などのプログラム、宣伝文、広告文が書ける。 長期にわたるいろいろな日記が書ける。 用途によるいろいろな手紙が書ける。 話のいきなりな平文ととることができる。 経路を一一〇字くらいの文に書ける。 讀べたこと、思っていること、考えたことをくわしく書くことができる。 文の組み立てを考えて書くことができる。 時の觀念(過去、現在、未来)についてはっきりことばの使い分けができる。 学級新聞や文集などを共同で編集することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 資料をあらかじめ調査したり、研究したりしたことをまとめて記録することができる。 自治会などの記事録などを書くことができる。 陸軍、詩、物語り、劇等の文学的な文を書くことができる。 学校や学級の行事を家庭へ知らせる通信文が書ける。 自作した文を書くことができる。 標準語と方言との使い分けができる。 主題と照合して推敲ができる。(加除添削) 	<ol style="list-style-type: none"> 演劇映画ラジオなどの感想意見などが書ける。 討論に参加するための原稿が書ける。 いろいろな委員会の記事が書ける。 実験観察調査の仕方や結果についての説明文が書ける。 学校に於ける諸活動についての規約をつくることができる。 新刊書の内容を批評し紹介する文章が書ける。 学校新聞に掲載する各種の文が書ける。 いろいろな文について批評意見を文が書ける。 用途によるいろいろな手紙が書ける。 資料をととのえ、主題をはっきりさせ、組立を考えて文を書くことができる。 くわしい表現、省略した表現ができる。 学校新聞の編集ができる。
<ol style="list-style-type: none"> 連筆が正確になる(一分間の文字が仮名五漢字一の割合の文の字二五字くらい) 横書にもなれる。 ペンの使い方に慣れる。 学習した漢字の八〇%が書ける。 新字に対しても筆順がわかるようになる。 かなづかいが正しく書ける。 ローマ字の単体が書ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 視写は一分間平均三〇字くらいの文字が書ける。 はがきや手紙の書状になれる。 必要により数字の使い方がなれる。 教育漢字の七〇%が書ける。 学級日誌などの記録ができる。 ローマ字の連続体になれる。 ノートの巧拙美醜がわかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 視写が一分間に平均三五字位書ける。 自由にかいて乱れないようにかける。 横書の書式が書ける。 原稿用紙が正しく使える習慣ができる。 教育漢字の八〇%が書ける。
<ol style="list-style-type: none"> 読んだ本について、その要筋や感想が書ける。 いろいろな行事についての標語や宣伝、広告の文が書ける。 見学、調査などの簡単な報告文が書ける。 ゲームの解説や作業計画などについて、説明の文を書くことができる。 児童詩をつくることができる。 物語や脚本を書くことができる。 多角的に取材して、まとまりのある生活日記を書くことができる。 文の組立を考えて、段落のはっきりした文を書くことができる。 敬体と常体との使い分けをすることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 調査や研究をまとめて、記録や報告の文が書ける。 児童会やクラブ活動などのいろいろな会の、簡単な議事録をつくることができる。 注文、依頼、お礼など、いろいろな用件に応じた手紙が書ける。 電文が書ける。 書いたり話したりするために、素材を整えて簡単な筋書きをつくることができる。 一つの文を精読したり、文路したりして、主題のいっそうはっきりした文とすることが出来る。 小見出しをつけて、文を書くことができる。 方言を区別して書くことができる。 敬語を適切に使用して、文を書くことができる。 適切な語を選ぶ能力が高まっていく。 語いが増大していく。 表現が創造的になっていく。 多くの作品を読んで、書く能力を高めることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 映画・演劇・放送などについて、感想や意見を書くことができる。 自分の意見を効果的に発表するために、原稿を書くことができる。 自分の生活を反省し、文を書くことによって思索することができる。 読んだ本について紹介・鑑賞・批評の文を書くことができる。 学校の内外の諸活動に必要なまとまりを書くことができる。 学校新聞を編集することができる。
<ol style="list-style-type: none"> 文字の形・大きさ・配列などに気をつけて、書くことができる。 標語やポスターなどを書くことができる。 原稿用紙が使えるようになる。 いろいろな表や、くわしい帳の記入ができる。 読める漢字のたいがい書ける。 (毛筆で字を書くことができる。) (ローマ字が書ける。) 	<ol style="list-style-type: none"> 一文字一文字の偏りが書ける。 書いた文字のよしあしがわかり、進んで上達しようとするようになる。 名札・表紙・案内・掲示などを書くことができる。 ペンで字を書くことができる。 読める漢字のたいがい書ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 自然な姿勢で、能率的に連筆ができる。 穴開きや、原稿用紙などを書くことができる。 文字の形、大きさ、配列などが整ってくる。 行書が書けるようになる。 執筆を使うことができる。 読める漢字のたいがい書ける。
<ol style="list-style-type: none"> 相手に通ずることばづかいをする。 多様な内容を通信に盛り込むように努める。 必要最小限をわきまに通信文を書き入れないようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 相手の心持ちを考えて書く。 生活上の必要な通信を始めるようになる。 	<ol style="list-style-type: none"> 自分の意見を述べて相手の批判や賛成を求めようになる。 自分の心の中を、信頼する相手に訴えようとする。
<ol style="list-style-type: none"> 段落や段落書きの形式に慣れる。 グラフ、原稿紙、図表などを適切に使う技術を身につける。 	<ol style="list-style-type: none"> 届や願書などの実用上の書式がわかる。 原稿用紙、大判用紙の使い方に慣れる。 題目や小見出しなどの形の使い方を覚える。 	<ol style="list-style-type: none"> 願書、届書などを書いてみる。 原稿の種類、その切り方などに慣れる。 表紙、口絵、とびら、目次などの形式を理解し自由に使う。
<ol style="list-style-type: none"> 書いたことを消すようになる。 なるべく客観的に説明や報告をしように心がける。 語い効果を意識するようになる。 読む人のちがいによって読み方・述べ方を変える。 	<ol style="list-style-type: none"> 人に伝える前に、方言や特殊な言い方を調べておさずように心がける。 書いたことを、もう一度調べて、正しいの信念を持って表すようになる。 大事なこととはばいを十分に吟味するよう心がける。 	<ol style="list-style-type: none"> 根拠のある述べ方を身につける。 知識や、情報をもとに人に対して役に立てることを喜ぶ。 大げいかわかるような表現の形式やよきえをよく考えて書くようになる。
<ol style="list-style-type: none"> 記録するとき、その真実性を考えてみるようになる。 メモを確実にする習慣をつける。 要点をしっかりとつかんで観察するようになる。 	<ol style="list-style-type: none"> 節や章を分けて記録する能力を養う。 集団の書記役となつて責任を果たすことに満足を感じる。 書くべきことを注意深く整える習慣をつける。 	<ol style="list-style-type: none"> 要点の筆記をするようになる。 科学的な物の見方を養っていく。 研究や記録の取材を教科書以外に広げていく。 見出しやまとめ、結論などの形式を整える。
<ol style="list-style-type: none"> 自分の体験したことを、まとめて考えるようになる。 自分の書いたことをもとに、生活を反省するよう習慣を身につける。 生活のすべての面で反省すべき材料のあることを知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 語の中で構想する習慣をつける。 いろいろな事件についての自分独自の感想を持つようになる。 学校外のことにも批判的な目をもって調べるようになる。 	<ol style="list-style-type: none"> 社会の出来事を見て、自分の意見を組み立てるようになる。 表現の工夫をいっつも心がける。 自分の考えを記録しておいて、それをまとめてみる。 生活反省がやや深くなる。
<ol style="list-style-type: none"> 感応性を豊かにする。 文を書きかえる、脚色する、変化を与えるような仕事を進んでやる。 	<ol style="list-style-type: none"> 自分の好きな書きたいことを、よいことばを選んで書くようになる。 独創的な文を作ろうとする。 取材領域を広める。 生活経験の印象を鮮明にする。 	<ol style="list-style-type: none"> 生活を豊かにするために、好きな文を創作することを楽しむようになる。 表現の工夫をいっつも心がける。 眼を利用して好きな文や詩を作ろうとする態度を身につける。
<ol style="list-style-type: none"> 読みやすいように字形、大きさ、配置などに気をつけて書く。 漢字の構成、部首をおぼえる。 漢字は新らしく二百字くらいおぼえて書く。 速く書けるように練習する。 ケガれ白紙に文や詩を書く。 ペンを使って書く。 小道帳、しぶんの所有品、読んだ本のくろくを書く。 標語やポスターなどを書く。 ローマ字の書きかたをおぼえる。 学級委員会の記録を書く。 先生の話を要点をノートする。 しぶんで発表する意見の要項を書く。 報告文の骨格をおぼえる。 接続詞をくふうして文を書く。 学級新聞の編集に協力する。 事件やのちのこを短くよく説明する文を書く。 対話、会話を文の中に入れて書く。 研究報告(社会科・理科・自由研究)の書きかたをおぼえる。 すくれた作品(文・詩)を味わって読んで感想批評を書く。 組立、人形しぼい、ゲントウなどの脚本を書いてみる。 学校学級の行事、催しものについて紹介宣伝の文を書く。 敬体と常体とのあらわしかたをおぼえる。 	<ol style="list-style-type: none"> 漢字は新らしく二百字の書きかたをおぼえる。 速く書いたかな字を書く。 練習するしぶんや他人の書きかたをわける。 必要に応じて毛筆や鉛筆も使って書く。 エドヒツやペンを使って一平方メートルにまるまると書く。 掲示、表紙、名札、ポスター案内などを書く。 読んだ本の要点をノートに書く。 調語をきいて要点をノートに書く。 文を書く前に、構想を練る。 調査、見学、研究、訪問などの記録を書く。 委員会の議事記録する。 行事計画、集会などについての説明文を書く。 文の注文、用事を依頼する、訪問の問合せ、お礼状など用件に応じた手紙を書く。 電文を書く。 入事、自然に取材して詩を書く。 小題目、自然に長文を書く。 校内放送のシナリオを書く。 標準語方言を意識して書く。 文のくわいをもとに表現したり、むだなところ、だれているところを削除して文をスイウする。 学校のすくれた作品を読んで長所をたしかめる。 	<ol style="list-style-type: none"> 速く、らくに書くように努める。 初步的な行書を書く。 漢字は新らしく二百字の書きかたをおぼえる。(これまでで教育漢字八八一字までとおぼえるようにする) 穴開き、原稿紙、申込などの書きかたをおぼえる。 修飾語を中心に文を分析してみる。 文集の編集をする。 作品批評を書く。 放送、劇、映画の感想を書く。 集会に参加して、しぶんの意見を効果的に発表する草稿を書く。 学校新聞の編集に協力する。 賞品ものけりを書きしてみる。 文章の種類を調べてみる。

<p>書いていく かりた文でなかったら、ほとんどの人にわからずことは書き 書くと、よい文になる</p>	<p>○精緻と省略がくべつできるようにする。不必要なことは、推こむように。また、長い文が簡潔できるようにする ○文の構造をたて書き、中心点をはっきりさせ、味のある文により、人の心をうつようにする ○思ったことは、どしどし書くようにする。しぶんの考えを、文の中にしっかりとつづらにする ○描写体と、説明体の区別がわかるようになる</p>	<p>○精緻と省略がくべつできるようにする。不必要なことは、推こむように。また、長い文が簡潔できるようにする ○文の構造をたて書き、中心点をはっきりさせ、味のある文により、人の心をうつようにする ○思ったことは、どしどし書くようにする。しぶんの考えを、文の中にしっかりとつづらにする ○描写体と、説明体の区別がわかるようになる</p>
<p>文の積立を考慮して、段落のはっきりした文を書くことができる(生活文) 小見出しをつけて、文を書くことができる(生活文) 多角的に取材して、まとまりのある生活日記を書くことができる(日記) 敬体と常体との使い分けをすることができる(通信) 児童詩をつくることができる(詩) 読んだ本について、そのあら筋や感想が書ける(感想) 児童会やクラブ活動などの長期にわたる記録が書ける(記録) 児童会やクラブ活動に必要な情報を、短い文にまとめることができる(記録) 児童詩をつくることができる(詩) ゲームの解説や作業計画などについて、説明の文を書くことができる(覚え書き) (要領よく)簡潔にまとめることができる(覚え書き) いろいろな行事についての標語や宣伝・広告の文が書ける(標語提示) 新しいことばを使用する興味が出てくる(標語提示) 物語を書くことができる(物語) 脚本を書くことができる(脚本) 自分の作品を整理したり、文集をつくりすることができる(編集) お互いの文を読みあわせて楽しむことができる(編集) 文を詳しくするために、必要なことばを書き加えることができる(編集) 文の面白さを高めるために、不必要なことばを削ることができる(編集) こぼれの正しい使い方の基礎ができる</p>	<p>一つの文を補記したり、省略したりして、主題のいっそうはっきりした文にすることができる(生活文) 小見出しをつけて、文を書くことができる(生活文) 多角的に取材して、まとまりのある生活日記を書くことができる(日記) 敬体と常体との使い分けをすることができる(通信) 児童詩をつくることができる(詩) 読んだ本について、そのあら筋や感想が書ける(感想) 児童会やクラブ活動などのいろいろな会の、簡単な議事録をつくることができる(記録) 児童会やクラブ活動の文が書ける(報告) 読んだ本について紹介・鑑賞・批評の文が書ける(感想) 映画・演劇・放送などについて、感想や意見を書くことができる(感想) 学校の内外の諸活動に必要な書きをすることができる(記録) 読書や研究をまとめて記録の文が書ける(記録) 児童会やクラブ活動などのいろいろな会の、簡単な議事録をつくることができる(記録) 読書や研究をまとめて報告の文が書ける(報告) 自分の意見を効果的に発表するために、原稿を書くことができる(覚え書き) 学校内外の諸活動に必要な書きをすることができる(標語提示) 適切な語を選ぶ能力が高まってくる(標語提示) 物語を書くことができる(物語) 脚本を書くことができる(脚本) 多くの作品を読んで、書ける能力を高めることができる(編集) 自分の作品を整理したり、文集をつくりすることができる(編集) よく推考することができる 文の組み立てを考慮して、段落のはっきりした文を書くことができる 敬体と常体との使い分けをすることができる 語いが増大してくる</p>	<p>一つの文を補記したり、省略したりして、主題のいっそうはっきりした文にすることができる(生活文) 小見出しをつけて、文を書くことができる(生活文) 多角的に取材して、まとまりのある生活日記を書くことができる(日記) 敬体と常体との使い分けをすることができる(通信) 児童詩をつくることができる(詩) 読んだ本について、そのあら筋や感想が書ける(感想) 児童会やクラブ活動などのいろいろな会の、簡単な議事録をつくることができる(記録) 児童会やクラブ活動の文が書ける(報告) 読んだ本について紹介・鑑賞・批評の文が書ける(感想) 映画・演劇・放送などについて、感想や意見を書くことができる(感想) 学校の内外の諸活動に必要な書きをすることができる(記録) 読書や研究をまとめて記録の文が書ける(記録) 児童会やクラブ活動などのいろいろな会の、簡単な議事録をつくることができる(記録) 読書や研究をまとめて報告の文が書ける(報告) 自分の意見を効果的に発表するために、原稿を書くことができる(覚え書き) 学校内外の諸活動に必要な書きをすることができる(標語提示) 適切な語を選ぶ能力が高まってくる(標語提示) 物語を書くことができる(物語) 脚本を書くことができる(脚本) 多くの作品を読んで、書ける能力を高めることができる(編集) 自分の作品を整理したり、文集をつくりすることができる(編集) よく推考することができる 文の組み立てを考慮して、段落のはっきりした文を書くことができる 敬体と常体との使い分けをすることができる 語いが増大してくる</p>
<p>指示して記事を集め、ます新聞らしいものを作ってみる(編集・指示) 目的に応じて必要部分を書きめく(記録) 整った読書記録をかきはじめ(記録) 底や沼はたの草花に取材した詩を作る(詩) 見学の申込みお礼の手紙をかき、見学の報告をかき(手紙・報告) 自分の目あて、学校の目あての標語をつくる(標語) かいや、かや、はえの飼育日記をかき、まとめて報告する(日記・報告) 日曜日一日の生活を自己体でかく(日記) おかかて大笑いした経験談を種に物語をかき(物語) 書き、なやみやみあけ、その挿絵をはかる(生活文) 毎日の天気記録をとり、日時と気温の関係をしらべて報告する(記録・報告) 虫とりを喜んで、興じた情景をかき(生活文) 他人の争いについて批判する(論文) 調べたいことばについて、他校の同学年生に問い合わせの手紙をかき(手紙) 他人の記録をかき、そのつづきをつくる(覚書) 自分たちの演技の要領、番組などをあらかじめ知らせる手紙をかき(手紙) ハイキングについて書く(紀行文) 自分に対し、学校に対し、こうありたいという担任の先生への希望事項をかき(感想文) 年賀状の目的を整理し、その練習をする(手紙) 雑誌をよんで、内容のすきかきいをする(論文) 休みの時間の情景を描写し、感想をかき(感想文) 冬籠の様子を調べてかく(報告文) 玩具を輸入してて整理にする(覚書) さきに作った言葉をもとに脚色する(脚本) お節句に招く手紙をかき(手紙) 一年間の作文を整理し、類別する(編集)</p>	<p>各種委員活動の記録のとり方を定め、記録していく(記録) これまでの作文帳を自己評価し、一そう役にたつように書く(記録) ことばの目的の意義を考え、覚悟をのべる(感想文) 一家総出の活気のみちた生活ふりをかく(日記文・生活文) 動物と植物、植物と動物の相互関係を調べてかく(報告文) 読書について意見を述べ、資料を提供する(編集・脚本) ほんをめぐる家庭行事をかき(生活文) 研究発表の原稿をつくる(論文・報告文) 夏休みの作品を資料として、手紙文・紀行文の書き方を研究する(手紙文・紀行文) 新聞記事や資料に伝染病対策のべる(論文) 自分の参加した運動競技を中心としたスポーツの秋をかき(生活文) 好きなことに興味をもち、資料を提供する(覚書) 読んだ本について紹介する(報告文) 防火の標語・論文を書き、消防署へおく(標語・論文) 共通語の方言を対照して表をつくり、傾向をまとめる(記録文) 三学期の委員選挙のまえに理想選挙について意見をのべる(論文) 大奮をぐる生活をかく(生活文) 分団ごとで雑誌をつくる。そして回覧する(編集) 手芸会用の脚本コンクールをする(脚本) 好きなもの一つだけ、その理由、感想を簡潔に書き、つぎつぎと書き進める(感想文) 郷土の開拓に努めた人、郷土出身の成功者を物語る(物語)</p>	<p>前案の進捗と、それに対する心構え、出発点をかく(論文) 見出しの書き方、読者の程度を考慮して、学校新聞をつくる(編集) 母の日にならみ、母の愛情、母への感謝を詩の形で表現する(詩) 修学旅行の見聞をわくわく書く(紀行文) 読んで、やさしくわかりやすく書く(報告文) 昆虫をよみ、他人の少年時代だけを簡明にまとめる(報告文) 昆虫の生活を観察し、擬人化して、物語とする(物語) 他人のたかまじさをたええる(感想文) 心構えの動きを書きめく(日記) 自分自身の長所、短所を率直にかく(論文) 人々相互の関係を調べて、考えて書く。同級生から、世の中全体(記及ぶ報告文) 自分自身の長所、短所を率直にかく(論文) 自分自身に協力し、読書の指示・標語をつくる(指示・標語) 自分が風になって、いろいろ失敗し成功したものがたりをかく(物語) 雑誌の性能、構造を調べて記録する(記録文) 好きな音楽、きれいな音楽について感想をかき(感想文) このころのビッグニュースについての感想をのべる(感想文) 知人をモデルにして物語をかき(物語) 旅行、要録、仕事、講義、兄弟関係など、研究上、生活上の苦い話を客観的にかく(報告文) スキー・スケートなどにつき、往復途上の見聞とともにかく(紀行文) 文庫の印刷・写真撮影など注文の手紙を作る(手紙) 卒業に際しての所感を表現する(詩、感想文) 謝辞会用のけの脚本をかく(脚本) そうして、内容ともに十分注意してりっぱな記念文集をつくる(編集)</p>
<p>教師 父母・友だち 知人</p>	<p>教師・父母 友だち・他学級 P・T・A</p>	<p>教師・父母 友だち・他学校 P・T・A</p>
<p>見舞い・消息状 礼状</p>	<p>見舞い・消息 問合わせ状・電報</p>	<p>見舞い・消息・礼状 注文・問合わせ状</p>
<p>生活日記 飼育栽培日記 学級日記 学習記録 説明 報告 会議の記録</p>	<p>生活日記 飼育栽培日記 学級日記 クラブ日記 学習記録 説明 報告 会議の記録</p>	<p>生活日記 飼育栽培日記 学級日記 クラブ日記 学習記録 説明 報告 会議の記録</p>
<p>文集編集 学級新聞 プログラム 指示 評語 書評 紹介</p>	<p>文集編集 学級新聞 プログラム 指示 評語 書評 紹介</p>	<p>文集編集 学級新聞 プログラム 指示 評語 書評 紹介</p>
<p>生活記録 物語 詩</p>	<p>生活記録 物語 詩</p>	<p>生活記録 物語 詩</p>
<p>1 日常生活 2 社会的な事象・事物</p>	<p>1 日常生活 2 社会的な事象 3 内面的事象</p>	<p>1 日常生活 2 社会的な事象 3 内面的事象</p>
<p>1 中心主題を段落にきりこむ 2 事件の展開の順序にまとめる 3 論理的思考によりまとめる</p>	<p>1 中心主題を段落にきりこむ 2 事件の展開の順序にまとめる 3 論理的思考によりまとめる</p>	<p>1 中心主題を段落にきりこむ 2 事件の展開の順序にまとめる 3 論理的思考によりまとめる</p>

17	興水実	1968	(二) 段落の技能 (1) 段落と段落でないだの文の連続とを区別する技能 (2) 文章がいくつかの段落(印刷上の段落)に分かれているかに気をつける技能 (3) ある事項が何番目の段落に出ているかを見いだす技能	(3) ある事項が何番目の段落に出ているかを見いだす技能 (4) 段落の話題文の技能	
			(三) 文章展開の技能 (1) 文章の時間的展開の技能 (2) 文章の場所的な展開の技能 (3) 文章の事件的な展開の技能 (4) 文章の展開を「はじめ」「なか」「おわり」で区切る技能	(1) 文章の時間的展開の技能 (2) 文章の場所的な展開の技能 (3) 文章の事件的な展開の技能 (4) 文章の展開を「はじめ」「なか」「おわり」で区切る技能 (5) 問題の提示とその解決という展開の技能	
			(四) 取材の技能 (1) ある課題に対してどうすることが自分に書きやすいことであるかをきめる技能 (2) 経験したことの中で大事なことを、価値あることをメモしておく技能	(3) ある課題に対して、どちらのほうがよい取材であるかを判別する技能 (4) いくつかのメモの中から、ある課題に対して適しているものをきめる技能	
			(五) 構想の技能 (1) ある話題に対して関連のあることを思い出す技能—関連のあるものと関連のないものとを区別する技能 (2) ある話題の下位項目の順序の技能—項目の順序としてどれがよいかをきめる技能	(3) 話題の下位項目の不適切なものを取り除く技能 (4) 話題の下位項目の欠けているのを補う技能	
			作文技能 (一) 基本文章型の技能 (1) できごとの文および文章の基本型の技能 (二) 創作の技能 (1) 絵を見て文を書く技能 (2) ある事柄について、自分がほんとうに思ったことを書く技能 (三) 手紙の技能 (1) 書式にしたがって書く技能 (2) 相手への尊敬や善悪、礼儀正しさを示す技能 (四) 記録・報告の技能 (1) 正確に書く技能 (2) 余計なことは書かない技能 (五) 生活文の技能 (1) 自分の経験したことを選んで書く技能 (2) 題目からはずれないように書く技能 (3) 順序よく書く技能	(2) ようすの文および文章の基本型の技能 (3) 説明の文および文章の基本型の技能 (4) 物語の続きを書く技能 (5) ある事柄について、自分がほんとうに思ったことを書く技能 (6) 何かを短くことばで書く技能 (1) 書式にしたがって書く技能 (2) 相手への尊敬や善悪、礼儀正しさを示す技能 (1) 正確に書く技能 (2) 余計なことは書かない技能 (3) 正しい語彙を避ける技能 (3) 順序よく書く技能 (4) 具体的に書く技能 (5) ありのままに書く技能 (6) 会話ごとを入れて書く技能	
18	文部省	1977	ア 文章に書くための事柄を考えたり見付けたりすること。 イ 見聞した事、経験した事などについて順序をたどって書くこと。 ウ 事柄を考えながら、語と語とを続けて簡単な文を作ったり、文と文とを続けて簡単な文章を書いたりすること。 エ 自分の書いた文や文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに注意すること。 オ 正しく描写したり聴写したりすること。 カ 経験した事の順序どおりに話すこと。	ア 書きたいと思う題材について必要な事柄を選ぶこと。 イ 事柄の順序を整理して書いたり話したりすること。 ウ 事柄が読み手によく理解できるように、文と文との続き方を考えて文章を書くこと。 エ 自分書いた文章を読み返して、間違いなどを正そうとする習慣をつけること。 オ 正しく描写したり聴写したりすること。 カ 経験した事の順序どおりに話すこと。	ア 文章に書く必要のある事柄を選び、それらを整理して書くようにすること。 イ 内容を分かりやすくするため、書く事柄ごとの区切りや中心を考えて書いたり、話の要点を考えて話したりすること。 ウ 書くこととするものをよく観察した上で書くこと。 エ 内容が読み手によく理解できるように、語と語との続き方に注意して文を整えたり、文と文との続き方を考えて文章を書いたりすること。 オ 語句の意味や役割を考えて、それを正しく文章の中で使うこと。 カ 自分書いた文章を読み返して、間違いなどを正すこと。 キ 正しく描写したり聴写したりすること。 ク 聞いたり読んだりした内容から、文章を書く素材を見付け出して書くこととする。 ケ 筋道をはっきりさせて話すこと。
19	瀬川栄忠	1979	文章に書くための事柄を考えたり見付けたりすること。 見聞した事、経験した事などについて順序をたどって書くこと。 事柄を考えながら、語と語とを続けて簡単な文を作ったり、文と文とを続けて簡単な文章を書いたりすること。 自分の書いた文や文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに注意すること。 正しく描写したり聴写したりすること。 経験した事の順序どおりに話すこと。	書きたいと思う題材について必要な事柄を選ぶこと。 事柄の順序を整理して書いたり話したりすること。 事柄が読み手によく理解できるように、文と文との続き方を考えて文章を書くこと。	文章に書く必要のある事柄を選び、それらを整理して書くようにすること。 内容を分かりやすくするため、書く事柄ごとの区切りや中心を考えて書いたり、話の要点を考えて話したりすること。 内容が読み手によく理解できるように、語と語との続き方に注意して文を整えたり、文と文との続き方を考えて文章を書いたりすること。
20	田淵マサ	1980	生活表現(1) 自分の経験したことをもとに、簡単な文が書けるようにする。 詩的表現 身のまわりのことと想ったことをきき取り、短く書けるようにする。 手紙 運動会にぜひきてほしいという気持ちがわかるような簡単な手紙文が書けるようにする。 記録/報告 一日の学習したことがらを、簡単なメモのような文で正しく書けるようにする。 感想 本話を読んでもらい、おもしろかったことや心に残ったことを簡単な文章で書くことができるようにする。 虚構 自分が空想することを(ゆめのくに)の形で自由に書けるようにする。	生活表現(1) 生きものの様子を自分が見たとおりに、正しく書くことができるようにする。 詩的表現 見つけたことや想ったことや考えたことを短い詩の形で書けるようにする。 手紙 お母さんに対してふだんから思っていることの中から、知らせたいことを選んで手紙が書けるようにする。 記録/報告 お店の様子をよく見て、見だしをつけて、だれにもわかる形で書けるようにする。 感想 童話を読んで想像したことや感動したことを、童話の主人公へあてた手紙の形で書けるようにする。 虚構 ことばの順序を考え、読み手によく分かるようなおはなしを作れるようにする。	生活表現(1) 身近な生活の中から書くことを見つかり、書くこととすることがはっきり書けるようにする。 詩的表現 感じたこと、想ったことなどを、ことばのえらみ方や使い方に注意して、生き生きと書けるようにする。 手紙 書くことの内容を整理し、文章の組み立てを考えて、相手によくわかる手紙文が書けるようにする。 記録/報告 植物や昆虫などの成長変化を観察し、それを正しく記録できるようにする。 感想 本を読んで、感じたこと、勉強になったことなどを、すじだけにたわれないで書けるようにする。 虚構 ことばをまとめて、簡単な構成のお話を作れるようにする。
21	小林喜三男	1980	文章意識 1 文章意識をもって話し、書かせる 2 ※主題意識をもって話し、書かせる 3 一文一文につけ加え文をつけて話し、書かせる 4 最初に話題文一文後話を話し、書かせる 5 ※物語の二構面の絵を書き話し、書かせる	段落意識 6 トピックを選んで話し、書かせる 7 気もろを入れて話し、書かせる 8 段落意識をもって話し、書かせる 9 ※物語の場面数を想定させ話し、書かせる	主題意識 10 内容を予想してから話し、書かせる 11 主題意識をもって書かせる 12 略叙・詳叙を意図して書かせる 13 ※物語の梗概を書かせる
22	国分一太郎	1984	1 みたこと、したこと、きいたこと、おもったこと、ありのままに、すなおに、じんじょよくかく 2 よく聞いて、なるべく、くわしくかく 3 だれにもわかるようにかきつづる	1 おもいきって長い文を書くか 2 おもその人ではかかないような、おもしろい題をえらんでかく、ほょうにかきつづる	
23	浮橋康彦	1988	経験・身近な事柄、簡単な文章・語、進んで表現。	事柄の順序、正しく表現 要領が分かるように、事柄ごとにまとまりのある簡単な文章・語、分かりやすく表現。	

	(7) 文章を意味段落に分ける技能 ----	
	(5) 読み手を考えて書くことがらをきめる技能	
	(5) ある項目(事項)群について、どこを山としてまとめるかという技能	
	(3) 説明の文および文章の基本型の技能 (4) 感想・意見の文および文章の基本型の技能	
	(3) 物語を改作する技能 (4) 自分で考えて物語を書く技能 (6) なにかを短いことばで書く技能	
	(1) 書式にしたがって書く技能 (2) 相手への尊敬や善意、礼儀正しさを示す技能 (3) 意図や用件をはっきりさせる技能	
	(4) あとになってわかるように書く技能 (5) 項目を分けて書く技能 (6) 事実と意見を分けて書く技能	
	(4) 具体的に書く技能 (5) ありのままに書き技能 (6) 会話などを入れて書く技能 (7) 中心点をはっきりさせて書く技能	
ア 自分の考えをはっきりさせたりまとめた後から、文章に書き表そうとすること。 イ 書く必要のある事柄を整理してから書く習慣をつけること。 ウ 書くことと中心点が明確になるような書き方や、内容の中心点がよく分かるような話し方をすること。 エ 事象を客観的に文章に書き表すこと。 オ 内容が読み手によく理解できるようにするため、段落を考え書き、また、段落と段落との続き方にも注意して書くこと。 カ 語句の使い方を工夫して書くこと。 キ 自分の書いた文章を読み返して、間違いを正したり、一層良い表現に書き改めたりすること。 ク 聞いた話んだりした内容から、文章に書く素材を選んだり書くこと。 ケ 筋道をはっきりさせて話すこと。	ア 文章を書いてみることで、自分の考えを明確にすること。 イ 必要な事柄を観点ごとに整理して文章を書くことによって、生活や学習に役立てるようになること。 ウ 主題や要旨の明確な文章を書いたり、筋道がはっきりしている話し方をしたりすること。 エ 事象と感想、意見などを区別して文章に書き表そうとすること。 オ 内容が読み手によく分かるようにするため、段落のはっきりした文章を書き、また、段落と段落との関係が論理的に理解しやすいうい文章を書くこと。 カ 文の組立てや適切な語句の使い方を工夫して文章を書くこと。 キ 自分の書いた文章を読み返して、叙述の仕方について一層工夫するようにすること。 ク 聞いた話んだりした内容から文章に書く素材を選んだり、読んだ文章の書き表し方を参考にしたりして文章を書くこと。 ケ 他人に伝えるために話すこと。 コ 目的や意図に応じて的確に話すこと。	ア 文章を書くことによって、自分の考えを深めること。 イ 目的に応じて必要な事柄を落とさずに文章を書くことによって、生活や学習に役立てることを。 ウ 根拠を明らかにし、それに基づいて自分の意見や主張を述べること。 エ 文章全体の構成を考え、目的に応じて文章を簡単に書いて詳しく書いたりすること。 オ 目的に応じて、事象と感想、意見などを区別して文章に書き表すこと。 カ 目的に応じて、文や文章の組立て、語句の使い方などを効果的にすること。 キ 自分の書いた文章を読み返して、一層効果的な叙述の仕方について工夫すること。 ク 文章や話の内容、事柄などを要約して書いて読み返すこと。 ケ 聞き手にも内容がよく味わえるように朗読すること。 コ 目的や意図に応じて的確に話すこと。
自分の考えをはっきりさせたりまとめた後から、文章に書き表そうとすること。 必要のある事柄を整理してから書く習慣をつけること。 書くことと中心点が明確になるような書き方や、内容の中心点がよく分かるような話し方をすること。 内容が読み手によく理解できるようにするため、段落を考え書き、また、段落と段落との続き方にも注意して書くこと。	文章に書いてみることで、自分の考えを明確にすること。 必要な事柄を観点ごとに整理して文章を書くことによって、生活や学習に役立てるようになること。 主題や要旨の明確な文章を書いたり、筋道がはっきりしている話し方をしたりすること。 内容が読み手によく分かるようにするため、段落のはっきりした文章を書き、また、段落と段落との関係が論理的に理解しやすいうい文章を書くこと。	文章を書くことによって、自分の考えを深めること。 目的に応じて必要な事柄を落とさずに文章を書くことによって、生活や学習に役立てることを。 根拠を明らかにし、それに基づいて自分の意見や主張を述べること。 文章全体の構成を考え、目的に応じて文章を簡単に書いて詳しく書いたりすること。 目的に応じて、文や文章の組立て、語句の使い方などを効果的にすること。
生活表現(1) 書きたいことを中心に文章を構成し、場面の様子や気持ちを生き生きと表現し、生活への見方、感じ方を深めさせる。 詩的表現 心に強く感じたことを自分自身のことばで、表現を工夫しながら詩に書けるようになる。 手紙 書くことと中心をはっきりさせ、自分の気持ちや考えが相手によくわかる手紙が書けるようになる。 記録/報告 理科などで実験したことを、予想一準備一実験方法一結果などの順にまとめて正しく書けるようになる。 感想 読書して感じたこと、思ったことを読む人に分かるように書けるようになる。 虚構 自由に想像して書くことにより、文章を書く楽しさを増し、心情を豊かにさせる。	生活表現(1) 文章全体の構成を考え、主題要旨のはっきりした生活文が書けるようになる。 手紙 目的に合うように必要なことを整理し、組み立てを考えて、用件をはっきりした手紙が書けるようになる。 記録/報告 見学した事実に基づいて、要点のはっきりした報告が書けるようになる。 虚構 書きたいことをまとめ、考えのはっきりした文章が書けるようになる。 虚構 場面の様子を想像して、豊かに描写できるようにさせ、組み立てや叙述のしかたを工夫して書けるようになる。	生活表現(1) 自分の気持ちや考えの深まりを書き表すために必要なことを落とさずに、構想をくふうして書けるようになる。 詩的表現 自分自身の目でとらえた感動を、言葉に気をつけて選択し、表現の工夫を考えながら詩に書けるようになる。 記録/報告 各委員会、クラブ、登校班などの様子を、だれにも分かるように報告する文章が書けるようになる。 感想 日常生活の中で強く感じたことを中心に、自分の意見を正しく分かりやすく書けるようになる。 虚構 生活と想像を関連させながら、効果的な表現のしかたを考え、ひとまとまりの物語を作らせる。
相手意識 14. 相手にわかるように意図して書かせる 15. 相手の質問を推量して説明文を書かせる 16. 語りなく、正しく相手に伝えさせる 17. ※物語に評価を加え良書推せん文を書かせる	構想意識 18. 列挙・分類し段落を構成して書かせる 19. 構成がえして事柄の核心から書かせる 20. 構想A・Bをつつ、一つを選び書かせる 21. ※類似の二作品を比較し評論を書かせる	自己の客観化 22. 自己の品行を客観化して書かせる 23. 自説に対して反論を書かせる 24. 草のある文章(小論文)を書かせる 25. ※成長に益した作品を挙げ将来の進路を書かせる
んとうに、かきたてたままのものを、それが、だれにもわかる	1 おもむきのある文、味のある文をかきつづ 2 構想と骨幹、描写と説明を区別してかく 3 構想をたてて、中心点をはっきりさせて、人の心をうつようにかく	
内容の中心点が分かるように、段落ごとの構成、段落相互の関係、意味のまとまり、軽重、整理しながら表現。	主題・要旨のはっきりした表現、全体の構成、筋道、相手や場面の状況を考えて表現。	目的や内容にふさわしい文章・話、的確で効果的な表現。

24	文部省	1989	<p>ア 尋ねられた事に答えたり、自分から進んで話したりすること。 イ 経験した事の順序を考えて話すこと。 ウ 書かための事柄を考えたり、見付けたりすること。 エ 見聞した事、経験した事などについて順序をたどって簡単な文章を書くこと。 オ 事柄を考えながら、語と語を繋げて簡単な文を作ったり、文と文を繋げて簡単な文章を書いたりすること。 カ 自分の書いた文や文章を読み返す習慣をつけることと、間違いないなど注意すること。 キ 正しく視写したり聴写したりすること。</p>	<p>ア 相手の話の内容を受けて話したり、自分から進んで話したりすること。 イ 事柄の順序を考え整理して話すこと。 ウ 書くこととする題材について必要な事柄を集めること。 エ 見聞した事、経験した事などについて順序を整理して文章を書くこと。 オ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して文章を書くこと。 カ 自分の書いた文章を読み返して、間違いないなどを正そうとする習慣をつけること。 キ 正しく視写したり聴写したりすること。</p>	<p>ア 相手の話の内容を受けて話題に合わせて話すこと。 イ 話の要点が分かるように、反切りを考えて話すこと。 ウ 文章に書く必要のある事柄を選び整理してから書くこと。 エ 事柄ごとの区切りや中心を考えてから文章を書くこと。 オ 事柄と事柄との続き方を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して文章を書くこと。 カ 書くとするものをよく観察してから書くこと。 キ 自分の書いた文章を読み返して、間違いないなどを正すこと。 ク 間違いや誤りなど内容から素材を見付け、その素材を使って表現して書くこと。 ケ 正しく視写したり聴写したりして、いろいろな書き表し方のあることに気付くこと。</p>
25	国語教育研究所編	1996	<p>「生活文」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 生活の中で体験したさまざまな事柄について感じたり考えたりしたこと等を表現することにより、文章を書く楽しさを知るとともに文章表現力の基礎を養う。 ② 豊かな心情や思考力の育成を目指す内面的な耕しにも役立つ。 ①が中心であり、②が中心になってはならない。 「意見文」の作文技術 ① 具体的な根拠に基づいて意見を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力の基礎を育てる。 ② 事実に関して考える力を育てるとともに、自分の生活を見つめる態度を育てる。 「報道文」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 報道文を書くためには、その目的に応じて取材をし、文章の組み立てを考え、読み手にわかりやすい表現をすることが必要である。 書く活動を通して、文章に対する態度や能力を身につけることができる。 ② 出来事をくわしく、正確にとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目育てることである。 SWIHDで、出来事をとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目育てる。それとともに論理的な思考力を併せて育てることが出来る。 いずれにしても①が中心であり、その結果、②ができるようになると考えてよい。 「対話・インタビュー」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 知りたいこと・新しく知ったことの情報を理解したり、情報の内容をわかりやすく伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ② 相手の言おうとすることを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。</p>	<p>「生活文」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 生活の中で体験したさまざまな事柄について感じたり考えたりしたこと等を表現することにより、文章を書く楽しさを知るとともに文章表現力の基礎を養う。 ② 豊かな心情や思考力の育成を目指す内面的な耕しにも役立つ。 ①が中心であり、②が中心になってはならない。 「意見文」の作文技術 ① 具体的な根拠に基づいて意見を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力の基礎を育てる。 ② 事実に関して考える力を育てるとともに、自分の生活を見つめる態度を育てる。 「報道文」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 報道文を書くためには、その目的に応じて取材をし、文章の組み立てを考え、読み手にわかりやすい表現をすることが必要である。 書く活動を通して、文章に対する態度や能力を身につけることができる。 ② 出来事をくわしく、正確にとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目育てることである。 SWIHDで、出来事をとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目育てる。それとともに論理的な思考力を併せて育てることが出来る。 いずれにしても①が中心であり、その結果、②ができるようになると考えてよい。 「対話・インタビュー」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 知りたいこと・新しく知ったことの情報を理解したり、情報の内容をわかりやすく伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ② 相手の言おうとすることを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。</p>	<p>「生活文」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 生活の中で体験したさまざまな事柄について感じたり考えたりしたこと等を表現することにより、文章を書く楽しさを知るとともに文章表現力の基礎を養う。 ② 豊かな心情や思考力の育成を目指す内面的な耕しにも役立つ。 ①が中心であり、②が中心になってはならない。 「意見文」の作文技術 ① 具体的な根拠に基づいて意見を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力の基礎を育てる。 ② 事実に関して考える力を育てるとともに、自分の生活を見つめる態度を育てる。 「報道文」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 報道文を書くためには、その目的に応じて取材をし、文章の組み立てを考え、読み手にわかりやすい表現をすることが必要である。 書く活動を通して、文章に対する態度や能力を身につけることができる。 ② 出来事をくわしく、正確にとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目育てることである。 SWIHDで、出来事をとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目育てる。それとともに論理的な思考力を併せて育てることが出来る。 いずれにしても①が中心であり、その結果、②ができるようになると考えてよい。 「対話・インタビュー」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 知りたいこと・新しく知ったことの情報を理解したり、情報の内容をわかりやすく伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ② 相手の言おうとすることを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。</p>
26	文部省	1998	<p>ア 相手や目的を考えながら、書くこと。 イ 書くこととする題材に必要な事柄を集めること。 ウ 自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考えること。 エ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いないなど注意すること。</p>	<p>ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。 イ 書く必要のある事柄を集めたり選択したりすること。 ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。 エ 文章のよいところを見付けたり、間違いないなどを正したりすること。</p>	<p>ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。 イ 書く必要のある事柄を集めたり選択したりすること。 ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。 エ 文章のよいところを見付けたり、間違いないなどを正したりすること。</p>
27	文部科学省	2008	<p>ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書くこととする題材に必要な事柄を集めること。 イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いないなどに気付く、正すこと。 オ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。</p>	<p>ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書くこととする題材に必要な事柄を集めること。 イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いないなどに気付く、正すこと。 オ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。</p>	<p>ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く必要のある事柄を調べること。 イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ウ 書くこととするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。</p>

<p>ア 相手や場に応じて内容の軽重を考えて話すこと。 イ 話の中心点が分かるように、筋道を立てて話すこと。 ウ 自分の考えをはっきりさせたりまとめたりしてから表現すること。 エ 書く必要のある事柄の順序や軽重を考え、整理してから書くようにすること。 オ 書くこととする事柄の中心点が明確になる書き方を考えて文章を書くこと。 カ 段落を考えて書き、また、段落と段落とのつなぎにも注意し文章を整えて書くこと。 キ 事象を客観的に文章に書き表すこと。 ク 自分の書いた文章を読み返して間違いなどを直し、分かりやすい文章に直すこと。 ケ 聞いたり読んだりした内容から素材を選び、その表現の仕方を参考にして自分の表現に生かすこと。</p>	<p>ア 相手や場に応じて適切な言葉を使い、それらの状況を考えて話すこと。 イ 意図をはっきりさせて根拠を明らかにしながら話すこと。 ウ 聞き手にも内容が分かるように朗読すること。 エ 自分の考えを明確にし、表現することによって更に考えを研かにすること。 オ 主題や要旨を考えて事柄を選び、観点ごとに整理してから書くようにすること。 カ 主題や要旨が明確に表れるように、構成を考えて文章を書くこと。 キ 段落のはっきりした文章を書き、また、段落相互の関係を考え文章を書くこと。 ク 事象と感想、意見などを区別して文章に書き表そうとすること。 ケ 自分で書いた文章を読み返し、叙述の仕方について工夫すること。 コ 聞いたり読んだりした内容から素材を選び、構成や叙述などの優れた点を参考にして表現すること。</p>	<p>ア 目的に応じて時間や話題の順序などを考え、計画的に話すこと。 イ 目的や意図に応じて適切に話すこと。 ウ 聞き手にも内容がよく味わえるように朗読すること。 エ 主題や意図をはっきりさせ、表現することによって更に自分の考えを深めること。 オ 目的に応じて必要な事柄を集め、全体を見直し整理してから書くようにすること。 カ 全体の構成を考え、目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 キ 目的に応じて、文や文章の組立ての効果を考えたり、文章全体の流れを考えたりして書くこと。 ク 根拠となる事象と感想、意見などを区別して文章に書き表すこと。 ケ 自分で書いた文章を読み返し、効果的な叙述の仕方について工夫すること。 コ 文章や話の内容、事柄などを要約したり敷衍(ふえん)したりして表現すること。</p>
<p>「生活文」の作文技術 ① 自分の考えたことや感じたことを文章に表現する基礎力を養う。 生活文は単に作文としてだけでなく、記録、日記、報告等の様々な表現方法にもつながる。 ② 人間の成長に必要なものの見方考え方を養う。 書くことによって、自分のまわりの生活を見つめ考え、さらにどう表現するかは人間の成長にとって欠かすことはできない。</p> <p>「意見文」の作文技術 ① 根拠を明らかにし、それに基づいて意見や主張を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力を育てる。 ② ものごとに対する主体的な認識力を育てるとともに、生活をより高めようとする態度を育てる</p>	<p>「生活文」の作文技術 ① 自分の考えたことや感じたことを文章に表現する基礎力を養う。 生活文は単に作文としてだけでなく、記録、日記、報告等の様々な表現方法にもつながる。 ② 人間の成長に必要なものの見方考え方を養う。 書くことによって、自分のまわりの生活を見つめ考え、さらにどう表現するかは人間の成長にとって欠かすことはできない。</p> <p>「意見文」の作文技術 ① 根拠を明らかにし、それに基づいて意見や主張を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力を育てる。 ② ものごとに対する主体的な認識力を育てるとともに、生活をより高めようとする態度を育てる</p>	<p>「生活文」の作文技術 ① 自分の考えたことや感じたことを文章に表現する基礎力を養う。 生活文は単に作文としてだけでなく、記録、日記、報告等の様々な表現方法にもつながる。 ② 人間の成長に必要なものの見方考え方を養う。 書くことによって、自分のまわりの生活を見つめ考え、さらにどう表現するかは人間の成長にとって欠かすことはできない。</p> <p>「意見文」の作文技術 ① 根拠を明らかにし、それに基づいて意見や主張を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力を育てる。 ② ものごとに対する主体的な認識力を育てるとともに、生活をより高めようとする態度を育てる</p>
<p>「報道文」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 報道する目的に応じて、必要な事柄を取材し、文章全体の構成を考え、簡単に書いたり詳しく書いたりする表現力を育てる。 ② 出来事を客観的に理解する能力を養う。 文章や話の内容、事柄などを要約したり、わかりやすく詳しく書いたりして表現する活動を通して、同時に理解能力を養うことができる。</p> <p>「対話・インタビュー」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 目的に合わせて収集した情報を正しく理解し、相手や目的に合わせて再構成して伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ② 相手が伝えたいことを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。</p>	<p>「報道文」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 報道する目的に応じて、必要な事柄を取材し、文章全体の構成を考え、簡単に書いたり詳しく書いたりする表現力を育てる。 ② 出来事を客観的に理解する能力を養う。 文章や話の内容、事柄などを要約したり、わかりやすく詳しく書いたりして表現する活動を通して、同時に理解能力を養うことができる。</p> <p>「対話・インタビュー」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 目的に合わせて収集した情報を正しく理解し、相手や目的に合わせて再構成して伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ② 相手が伝えたいことを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。</p>	<p>「報道文」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 報道する目的に応じて、必要な事柄を取材し、文章全体の構成を考え、簡単に書いたり詳しく書いたりする表現力を育てる。 ② 出来事を客観的に理解する能力を養う。 文章や話の内容、事柄などを要約したり、わかりやすく詳しく書いたりして表現する活動を通して、同時に理解能力を養うことができる。</p> <p>「対話・インタビュー」の作文技術 ① 文章表現力の基礎を養う。 目的に合わせて収集した情報を正しく理解し、相手や目的に合わせて再構成して伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ② 相手が伝えたいことを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。</p>
<p>ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。 イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。 ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。 エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</p>	<p>ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。 イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。 ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</p>	<p>ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。 イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。 ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</p>
<p>ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる。 イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ウ 書くこととする事柄の中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ 文章の全体と全体との違いに注意しながら書くこと。 オ 文章の関連性を正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。</p>	<p>ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ウ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。</p>	<p>ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ウ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。</p>

文献一覧

番号	著者	年	著書名・章題名	編者	年	著書名	号	表掲載頁	出版社	備考
1	小島忠治	1950	教育文化新書 国語表現学習の研究					22-37	教育文化社	
2	文部省	1951	小学校学習指導要領国語科編(試案)改訂版							昭和26年度版
3	倉澤栄吉	1952	作文教育の大系					66-70	金子書房	
4	波多野完治・滑川謙次	1953	作文教育新論					131-140	牧書店	滑川道夫作成
5	八木清視	1953	わたしの作文指導系統案(A案)	石黒修・滑川道夫・西原慶一・平井昌夫・増淵恒吉 編	1953	国語教育実践講座 第4巻 作文・書きかたの学習指導		200-201	牧書店	入門期・低学年・中学年・高学年の区分
6	猪股辰弥・西村省吾	1954	作文はこうして指導する 低学年用					19-24	光風出版	
7	教師養成研究所国語科教育部会	1955	国語科教育研究叢書 第1集 作文指導法					236-247	学芸図書	
8	高野柔蔵	1955	小学校低学年における作文教育の指導	全日本国語教育協議会 編	1955	明治図書講座 国語教育 第5巻 作文教育		167-169	明治図書	
9	大原輝男	1957	小学校高学年の作文指導	西尾実・古田弘・仲田庸幸 編	1957	作文の教育2 作文指導の実際		260-263	晋文社	
10	文部省	1958	小学校学習指導要領							昭和33年度版
11	佐古田好一	1960	作文指導の内容と系統 1 小学校	倉澤栄吉 編	1960	実践講座 国語教育 第7巻 作文指導		83-96	牧書店	
12	大阪綴方の会	1961	作文指導の学年別系統案	日本作文の会 編	1964	作文指導系統案集成		6-17	百合出版	系統表中の「表現技術」欄の内容を記述した。
13	文部省	1968	小学校学習指導要領							昭和43年度版指導要
14	東京八南作文の会	1963	小中学校文章表現系統案	日本作文の会 編	1964	作文指導系統案集成		79-97	百合出版	
15	静岡・沼津作文の会	1963	作文指導系統試案	日本作文の会 編	1964	作文指導系統案集成		49-67	百合出版	
16	石田佐久馬	1964	これからの作文指導-だれもが書ける作文をめざして-					108	東洋館出版社	
17	興水実	1968	序説 国語科の基本的技能	興水実 編	1968	国語科基本的技能の指導6 作文技能		29-32	明治図書	
18	文部省	1977	小学校学習指導要領							昭和52年度版
19	瀬川栄志	1979	国語科「表現」領域の指導	飛田多喜雄・藤原宏 編	1979	新国語科教育講座 第二巻 表現領域編		142-145	明治図書	「昭和52年度学習指導要領国語科」の内容を整理したものであると説明されている。
20	田淵マサ	1980	作文の指導計画をいかに立てるか	榊島忠夫・中西一弘 編	1980	作文指導事典		443-450	東京堂出版	年間計画の立て方の例として、小田原市山王小の指導計画が系統表の形で示されている。その中の「目標」の内容を記述した。
21	小林喜三郎	1980	文章表現・系統的指導(試案)	自動言語研究会 編	1980	国語の授業	38号	18	一光社	
22	国分一太郎	1984	ほるぶ現代教育選集12 新しい綴方教室					171-172	ほるぶ	
23	浮橋康彦	1988	作文指導 作文指導の目標	国語教育研究所 編	1988	国語教育研究大辞典		383-384	明治図書	「昭和52年度学習指導要領国語科」の「能力・態度」の要点を摘記したものであると説明されている。
24	文部省	1989	小学校学習指導要領「作文技術」指導大事典							平成元年度版
25	国語教育研究所 編	1996						196.200 (生活文) 225.230 (意見文) 302.306 (報道文) 316.320 (対話・インタビュー)	明治図書	「生活文」 低学年: 貴戸紀彦、高学年: 渡辺知樹 「意見文」 近藤章 「報道文」 低学年: 山田一、高学年: 榊田崇人 「対話・インタビュー」 低学年: 吉永幸司、高学年: 高野靖人
26	文部省	1998	小学校学習指導要領							平成10年度版
27	文部科学省	2008	小学校学習指導要領							平成20年度版